「線路はつづくよどこまでも」の歌詞にあるように，出張や旅行で鉄道を利用すると，高層ビルに囲まれた都市，牧歌的な草原，急峻（しゅん）な山や谷，また大小の河川などを車窓から望むことができます。これらの風景は春夏秋冬同じでは無く，夏には青々とした山の斜面が冬には雪を頂く斜面へと変わったりと，場所の違いに加えて季節の違いでその風景は一変し，乗客の目を大いに楽しませてくれます。これは鉄道の大きな魅力のひとつですが，見方を変えると，鉄道はいろいろな自然環境にさらされているということでもあり，多種多様な自然災害に備える必要があることを物語っています。

今月号は，「気象災害から鉄道を守る」と題して特集を組みました。局所的強雨や突風による災害発生に対する減災技術として，気象レーダーを用いた豪雨の早期検知予測技術の先端的な研究や気象状況の面的把握，風，雨，雪など厳しい気象環境に対する最近の取り組みを紹介しました。今後，減災技術への展開が大いに期待されます。

さて，次号の特集は「鉄道の見えないものを探る」です。見えないといってもものけや幽霊のたぐいではなく，電気，振動，音などの物理的現象やヒューマンエラーに対する取り組みを紹介します。どうぞご期待ください。（S.I.）